

最終処分場特別対策事業（二次対策工事）に係る債務負担行為の設定について

旧アール・ディエンジニアリング最終処分場に起因する生活環境保全上の支障除去等事業については、産廃特措法に基づき、環境大臣の同意を得て事業実施計画を策定し、国の支援を得て、平成25年度から総額70億円の事業費で二次対策事業を実施しているところ。

二次対策事業のうち、地下水への汚染拡大を除去するために行う有害物掘削除去工は、深くまで掘削する箇所では矢板またはケーシングを設置して行うこととしているが、これまでの実績から当初想定できなかった大型の鋼材等、想定外の廃棄物が埋められている可能性があるため、大型の鋼材等も切断して対応できる工法（全旋回オールケーシング工法+砂置換+パイプロハンマ工法）に変更する必要があるが生じた。

事業に係る費用は、工法変更等により、約11億円増額する必要があるが、特に有害物掘削工の矢板打設工法変更にかかる約8.2億円については債務負担行為の設定が必要である。

1. 債務負担行為をする理由

○有害物掘削除去工については矢板打設工法変更により工程が延び、約2年5か月を要するため、工事全体を予定工期内である平成32年度末までに完了するためには、今年度中に工事請負契約の変更契約を締結して来年度当初から着手するとともに、有害物掘削除去区画を一体的に施工する必要があることから、工法変更にかかる費用の約8.2億円について、債務負担行為を設定する必要がある。

【有害物掘削除去工 工程表】

| 工種 | 平成30年度 | | | | 平成31年度 | | | | 平成32年度 | | | |
|-----------------------|--------|--|--|--|--------|--|--|--|--------|--|--|--|
| 全旋回オールケーシング工法 +砂置換 | | | | | | | | | | | | |
| 矢板設置 | | | | | | | | | | | | |
| 掘削・埋戻工 | | | | | | | | | | | | |
| 矢板撤去 | | | | | | | | | | | | |

【債務負担年度割表】

| | 金額 | 割合 |
|--------|-------------|-----|
| 全体 | 815,000,000 | |
| 平成30年度 | 545,000,000 | 67% |
| 平成31年度 | 231,000,000 | 28% |
| 平成32年度 | 39,000,000 | 5% |

2. 今後の予定等について

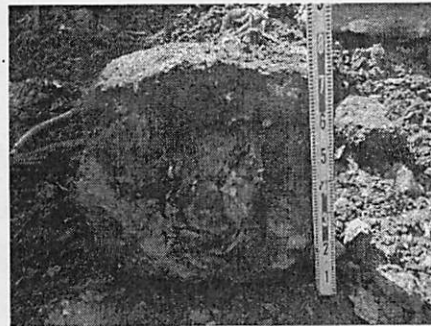
- 平成29年10月24日 環境省 事業実施計画変更協議書提出
- 11月29日 環境省 事業実施計画変更 環境大臣同意
- 11月 11月定例会議 平成29年度補正予算案提出
(最終処分場特別対策事業債務負担行為補正)
- 平成30年2月 2月定例会議 平成30年度当初予算案および変更契約議案提出
【2月定例会議 変更契約議案 概要】
 - ・工事名称 : 平成25年度第RD-3号旧産業廃棄物最終処分場二次対策工事
 - ・請負業者 : 鴻池・不動テトラ・八田建設工事共同企業体
 - ・工期 : 平成25年12月20日～平成33年3月25日
 - ・現契約額 : 3, 598, 932, 600円
 - ・変更による増減額(見込み): 約9億円増
- 平成30年度～ 事業実施計画に基づき有害物掘削除去工事等に着手

<参考>

●支障物の状況



大型の鋼材



コンクリート殻

●工法概要

【当初工法】

- 工法: アースオーガ併用圧入工法
- 工法概要: 掘削ドリル(アースオーガ)を用いて削孔し、それと同時あるいは削孔後に油圧機構を用いて鋼矢板を押し込む工法
- 選定理由: 小さなコンクリート殻があっても施工可能な当該工法を選定した。

【変更工法】

- 工法: 全回転オールケーシング工法+砂置換+矢板打設
- 工法概要:
 - ①鋼矢板を設置する箇所において、先端に金属刃を取り付けたケーシング(鋼管)の旋回掘削により大型の鋼材、大きなコンクリート殻などを切削破碎し、ハンマグラブ(掘削機械)で取り除いた後、砂等を埋め戻してケーシングを引き抜く。
 - ②その後、鋼矢板を打設する
- 選定理由: 大型の鋼材等の除去が唯一可能である当該工法を選定した。